

法人（事業所）理念		すべての人間には存在価値と賜物（輝き・生まれ持ったギフト）があります。それらを最大限に楽しみ、引き出し、伸ばし、共にようこびます。 こども達を愛します。興味を持って向き合います。 人に愛される子に育ってほしい。欠乏や混乱のない人生を送ってほしい。 なにができるか、なにをすべきかを考えます。								
支援方針		道徳性や良い生活習慣を身につける為に、個別のプログラム（療育）を提供します。 また、保護者様の負担を軽減できるよう、できる限りの便宜を図りますので、お気軽にご相談ください。 モンテッソーリ教育を基本理念としたみるくはうすのプロジェクトチームでは、総カードを使って一日の訓練予定（見通し）を選んでもらいます。毎日毎日、必ず行い、達成と片づけまでを生活の一部にすることで、「主体性・見通し・安心感、予告行動・片づけの習慣化・自動心・自己肯定感・他のお友達との協調性」等が育れます。								
営業時間		9 時		30 分		18 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	◎「生きる力」を育むための環境作り 「健康」とは、自分の心身を大切にする力です。食事・睡眠・衛生管理などを「やらされ感」ではなく「自分で遊ぶ楽しさ」として学べる環境を目指します。 例えば、トイトレーニングでは成功シールで達成感を可視化するなどで日々の習慣をゲーム感覚で取り組めるように促します。 また、生活管理スキル向上のため、スケジュール作成では「自分で決める自由」を重視。「次は何？」ではなく「どうしたい？」と問いかけ、主体的な時間管理を促します。カレンダーやタイマーを活用し、「やることリスト作成」や「目標設定と達成感」を通じて自覚性を育みます。 このように、子どもたちが「決められた生活」ではなく「自分に合った生活をデザインする力」を育むことを目指します。								
	運動・感覚	◎「自由な身体の使い方」を支援 運動の出発点は、「正しく動く」ことより「自分の体と仲良くなる」こと。だから体力や機能向上も、画一的なプログラムではなく、子どもが「やってみたい!」と心惹かれる工夫を凝らします。流行のダンスなどで興味を引き出し、振り付けにこだわらず自由に動ける雰囲気作りを大切にします。 また、目を閉じて歩く、手触りで物を当てるなど「五感を使う」遊びで、体の新たな可能性の発見も促します。 一人ひとりの感覚特性にも配慮し、好きな素材のマットを用意したり、静かな環境で活動できる時間を設けたりと、誰もが無理なく楽しめるようきめ細やかにサポート。 目指すのは「できる動き」より「自分らしい動きを心から楽しむ」こと。子どもたちが自分の体で自由に表現する自信を育みます。								
	認知・行動	◎「失敗を面白く考える」文化の醸成 考えるとは、正解を見つけるだけでなく、試行錯誤を楽しむ力です。私たちは、子どもの認知特性を理解し、それぞれに合った思考スタイルを尊重します。例えば、視覚的な手がかりの提供や、自由に実験できる環境を整えます。 また、ルールを覚えるだけでなく、「自分で気づく」体験を重視。「どうすればこのパズルが解ける？」と問いかけ、子ども自身が環境に関わりながら考える機会を増やし、現実世界での応用力を高めるため、多様な解決策を考える練習も促します。 気になる行動に対しては、「直す」のではなく「なぜその行動が生まれるのか」を共に探ります。環境調整や代替行動の提案に加え、一律対応ではなく、その子に合ったクールダウン方法を一緒に見つけます。 これらの支援を通じ、「失敗は学びのチャンス」という考え方を育み、子どもたちが安心して挑戦できる環境を創造しています。								
	言語コミュニケーション	◎「話すこと」より「伝わること」を大切に コミュニケーションとは、言葉だけでなく、ノンバーバルコミュニケーションも含め、自分の気持ちや考えを伝え、相手の気持ちを受け止めることです。私たちは、子ども一人ひとりのコミュニケーション能力を高めるため、まず「伝えたい気持ち」を引き出し、色やイラストなど言葉以外の表現方法も一緒に考えます。 聞く力と伝える力のバランスを重視し、訓練や遊びを通して自然なやりとりを促し、言葉が苦手な子には写真やジェスチャーなど「自分にとって伝えやすい方法」を見つけてサポートをします。 さらに、状況に応じたコミュニケーション練習として、場面ごとのロールプレイで適切な伝え方を学びます。 この際、すべての子どもに同じ方法を求めるのではなく、無理のない表現を尊重し、うなずきや指しなど多様な表現方法を認めることで、安心して自分らしい伝え方を見つけられるようにします。こうした支援を通じ、「どんな方法でも気持ちは伝えられる」という自信を育み、子どもたちが安心してコミュニケーションを楽しめる環境を作ります。								
	人間関係社会性	◎「みんなと仲良く」より「自分のペースでつながる」 子どもが集団の中で自分らしく育つために、「みんなと仲良くする」よりも「自分のペースで他者とつながる」ことを大切にしています。 たとえば、集団活動では一斉に同じことを求めるのではなく、一人ひとりが自分のペースで参加できる選択肢を用意します。無理に輪に入らず、まずは一人でできる活動から始めて、「やってみようかな」という気持ちが発生した時に自然と関わられるよう、そっと見守ります。 心の安定には「一緒にいることに感じる安心感」が何よりも大切です。言葉がなくても、好きなものをいせ合ったり、手を使って一緒に遊んだりすることで安心感を育み、「大丈夫だ」という自信から言葉での交流へと広がることを目指します。 他者との関わりでは、苦手な子との交流も「お互いの違いを認め合う学び」と捉えます。ゲームや遊びを通じて、互いの得意なことや、どう支え合えるかを探していきます。 自分の気持ちや得意・苦手を知り、「どうすれば心地よく過ごせるか」を考える自己理解と行動の調整も重要です。活動前に「今日はどうしたい？」と問いかけ、子ども自身が自分の気持ちと向き合い、行動を選ぶようサポートします。 仲間づくりや集団への参加においても、「みんなと同じことをしなきゃ」というプレッシャーは不要です。個々のペースで「できることから参加」を促し、徐々に他者と関わるような小さなきっかけを用意します。 このように、「みんなと仲良しがしたい」という焦りから解放し、「自分のペースで他者とつながる力」を育むこと。それが、子どもたちが安心して社会性を広げていける、あたたかい環境づくりにつながる我们相信しています。								
家族支援		放課後等デイサービスや児童発達支援の家族支援は、アタッチメント（愛着）の安定を重視し、家族全体の理解と共感を深めることで安心できる環境を育みます。適切な助言や障害特性に配慮した家庭環境の備を支援し、家族の負担を軽減するレスパイトも提供。これにより、子どもの成長を支えながら、持続可能な支援体制を築きます。			移行支援			子どもたちが学校や卒業後の進路先へ円滑に移行できるよう、将来を見据えた準備を行うことが重要です。個々のライフステージの変化に応じた支援を計画し、必要スキルや経験を積む機会を提供します。学校や他の支援機関と連携し、併行利用の調整を行うことで、一貫性のあるサポートを実現します。また、地域とのつながりを深め、社会参加の機会を広げることで、自立に向けた基盤を築きます。		
地域支援・地域連携		保育所・学校・医療機関等との円滑な情報共有と調整を図ります。また、児童一人ひとりに適した支援方法や環境調整に関する相談援助を充実させ、包括的な支援体制を整備します。さらに、自治体との連携を深め、地域資源の活用や支援ネットワークの強化を推進し、子どもたちが安心して成長できる環境づくりを目指します。			職員の質の向上			職員の資質向上のため、以下の学習を継続的に実施しています。 ・虐待防止研修やBCPの理解の強化 ・5領域（健康・生活・運動・認知・言語・人間関係）に基づく支援方法の共有 ・事例検討やケーススタディを通じた実践的学習 ・外部研修への積極的な参加（最新の療育手法・支援技術の習得、他事業所との連携強化） 専門資格取得のための支援制度の整備 ・療育・制度・ガイドライン等の読み合わせと実践への落とし込み（意見交換を通じた理解の深化、研修内容の現場適用） これらを通じて、支援の質を高め、より良い療育環境を提供します。		
主な行事等		1月 新年イベント（冬休み企画） 2月 バレンタインデー 3月 卒業式、スプリングフェスタ（中西舌島駅前商店街） 4月 防災体験（防災センター） 5月 避難訓練、深井浜小ファミリーフェスティバル（保護者、地域、他事業所との交流） 6月 家族の日（母の日と父の日を合わせた制作して活動） 7月、8月 スポーツ施設やプラネタリウム等施設へお出掛け、夏祭り、他事業所との交流 10月 福祉秋祭り（保護者、地域、他事業所との交流） 11月 避難訓練、宮園校区食フェス（保護者、地域、他事業所との交流） 12月 クリスマスパーティー、お餅つき大会								